

第107回「村長とのふれあいトーク」当日のやりとりコメント

【1】 上谷原第3班ごみ置き場のアクセス通路について

上谷原第3班ごみ置き場は、班員がアクセス通路除草作業を実施している。近年は温暖化も影響し、茨城県が発行する熱さ指数31℃以上となるタイミングで除草作業をしなければならぬ場合もあり、熱中症に罹患する恐れもある。また、通路横の用地が整備された影響で、ごみ置き場までの通路の水はけが悪く、長靴をはかないとごみ置き場までいけない。そのため、除草作業が不要となるよう地表部をアスファルト施工し、水はけも考慮して側溝へ導く流路を設けてほしい。今のごみ置き場の設置場所は、各利用者の家から均等な場所にあるので移設はしたくない。村でアスファルト舗装ができない場合は、常会で碎石を敷く等対応してもいいのか。以前に、村で碎石撒きを対応してくれたこともあるが、徐々に碎石が無くなってしまった。まずは現場を見に来てもらいたい。

⇒【村長コメント】

皆さんが利用しやすい場所にごみ置き場を設置したいということは分かった。まずは、ごみゼロ推進室と建設部の職員も入れて現場を確認し、後日連絡する。

⇒【道路整備課コメント】

道路整備課で現場を見に行きましたので回答します。この度アクセス通路の整備等を要望いただきましたが、現在当該箇所の整備予定はなく、村内のごみ置き場使用を許可している土地につきましては、維持管理は使用者にお願いしています。そのため、御意見のありました碎石を敷く等、常会でアクセス通路を整備することにつきましては、隣地に影響がない範囲であれば常会で対応いただき維持管理をしていただければと思います。

併せて環境政策課ごみゼロ推進室に確認したところ、ごみ置き場の移動につきましては敷地内ならどこに移動しても問題ないとのことでした。

今後とも該当箇所の使用にあたり常会での維持管理等の御理解、御協力の程よろしく願いいたします。

【2】 家庭向け廃棄物の収集許可について

10年ほど前に清掃センターに家庭用の廃棄物の収集について相談にいったが、許可は出さないと言われてしまった。今は、色々なことをやっていて、東海村でも家庭向けのごみの収集サービスをしたいと考えている。日立市や常陸太田市では既に実施している。具体的には不用品の回収となる。既存の村内業者とは競合しないように、例えば家庭向けだけにする等してやっていきたい。今も個人からお願いされれば、ボランティアで回収に行っているが、自分も脳梗塞で倒れているので自分の代わりに、自分のスタッフも回収ができるといいなと思うようになった。2年ぐらい前に、日立市でチラシを全戸配布したことがあるが、未だにチラシを見た問合せがあるのでニーズは多いのではないかと思う。

⇒【村長コメント】

資料については、一度預かる。

【3】 学童クラブ設置に伴う調整区域の用途変更について

前回ふれあいトークで相談した後に、（調整区域の用途変更について）担当課や国土交通省の方と話をしたが、法律の制限もあり、調整区域の土地利用の変更は難しいと言われた。中丸コミセン

の隣も検討したが、農振地区で難しいと言われた。学童としては、人家が少なく駐車場もある場所が良いと思っており、空家や貸家も住宅街になってしまうので候補地にできない。どうすれば候補地となっている場所（調整区域）で学童クラブができるのか。

⇒【村長コメント】

調整区域の土地利用は、どこまで用途変更を認めるかが難しい。調整区域で公益性のあるものをやる場合に、どういう基準をつくれば、乱開発にならずに建物ができるかというのを考えなければならぬ。条件をつけて、ある程度規制を緩和していこうと考えているが、それには議会の議決を経て条例を制定する必要があるが、1・2年ですぐ条例がつくれるわけではない。今は、土地利用の実態調査を行っているところであり、その中で、このエリアは将来どのような地域になっていくのかを見据えた上で、この調整区域の規制を緩和するかどうかを決定することになる。学童クラブについては、現時点では公設と民営で受け皿としては収まっている状況という認識である。

【4】－1 電力不足について

電気が不足しているのに、なぜ原子力発電所は動かないのか。

⇒【村長コメント】

原子力発電所では、福島での事故があってから安全対策工事を行っている。その工事を終えたところから稼働しており、東海村はまだ工事をしている状況である。また、原子力発電所を動かすためには、再稼働に反対する方たちに、理解してもらうことも必要となる。火力発電のほかに、太陽光発電等の再生可能エネルギーを使用しているが、電力を賄うことは難しくなっていると思う。村としては何か起きた時に住民を安全に避難させることが求められている。

【4】－2 政治への関心について

今自分は30歳代である。自分の世代を含む若い世代が自分の生活に直結するのに、政治に関心がない人が多い。そのことについて村長はどう考えるか。自分に家族ができて、子供も生まれた。子供や後の世代にもちゃんとした国を残したい。

⇒【村長コメント】

政治ということになると話が大きくなってしまうので、まずは自分の生活に結びついている行政や施策について興味を持ってもらいたい。それらが自分の生活に関わる人が多いことを知ることによって、政治にも興味を持つことになると思う。議員のなり手不足により、候補者が少なく、議員定数が割れてしまうので、選挙に行っても議員に変化がなく、住民の意見が反映されない状況になっている。一方で、村では先日の東海まつり等がにぎわっていた。それらは商工会青年部がボランティアとなって盛り上げていた。商工会だけではなく、日立製作所や原子力関係の企業にも協力してもらえるといい。その中で日頃の課題を話し合ってもらいたい。行政は現在幅広い世代にサービスを提供しているが、それには限界がある。地域の自治会も加入者が少なくなっており、形骸化しているところもある。自治会等では、昔からやってきた内容を今の若い世代にそのままやってもらおうという考えがあることから、若い世代がそれを嫌がり加入者が減少傾向にあると思う。しかし地域の中では、自治会ではなく自分たちでいろいろな活動を行う若い世代が増えてきた。それらの催しがあった場合にはぜひ参加してほしい。

【5】 里親制度について

里親制度を活用したいと考えているが、そういう時に相談する部署はどこになるか。小学校等に入学する時は相談することもあると思う。また、先日高萩で実施された県の説明会に参加

した。お寺（同仁会）で説明会を実施していた。そこで子どもの数に比べて里親になる人が少ないという現状を知った。県だけではなく、市町村の見解も必要だと思う。子どもたちの未来に関わることでもあるので、里親制度を広めていきたいと思っている。

⇒【村長コメント】

里親制度は、県の児童相談所が所管していると思う。市町村で直接やっていないが、一緒に生活するため、色々な制度を活用できるようにするかどうかは村の判断になると思う。住民票に記載されればできるようになるのかもしれない。医療費の無償化であれば、保険課になるし、学校に入学するのであれば教育委員会の話になると思う。まずは県で実施する制度の説明会等に参加しれもらえれば、一定程度レクチャーはしれもらえるのではないか。相談であれば、役場の方から県の関係部署に繋ぐこともできる。今後、説明会に参加した際に、これは村でも分かってもらっていた方がいいのではないかといいものがあれば、また教えてほしい。何か相談があれば、地域福祉課※がいいと思う。

（※里親制度は「子育て支援課」が窓口ということで訂正連絡済）